

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H02288

研究課題名(和文) 農村地域社会領域の重層性に関する比較史的分析 - 日本・西インド・朝鮮 -

研究課題名(英文) A Comparative Historical Analysis on the Multilayered Structure of the Rural Community Areas: focusing on Japan, West-India and Korea

研究代表者

松本 武祝 (MATSUMOTO, Takenori)

東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・教授

研究者番号：40202329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、日本における農業集落、中近世の郷、近世村、近代行政村など、重層的に形成されてきた農村地域社会の領域に着目した。そして、それらの領域の重層的な相互関係を、中世以来の長期の系譜論的な視点から分析した。その際に、西インドと朝鮮を対象として比較史研究を行った。旧熊本藩における郷単位の自治的行政機構(手永)の分析、市町村・農協合併に際しての手永領域の影響、西インドと日本の郷/郡・村の重層的な関係の比較分析等の成果を挙げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究では、農村地域社会領域の重層的な相互関係を、長期的な視点で分析した。現代日本の農業構造政策においては、農業集落、市町村、JAなど、活動領域を異にする複数の政策対象および担い手が設定されており、それら領域相互の分業関係の構築が課題となっている。また、いわゆる「平成の大合併」以降、地域アイデンティティの醸成が政策課題となっている。農村地域社会領域における重層性の歴史的系譜を認識することは、こうした現代日本農村の政策課題に貢献しうるものであり、学術的にも社会的にも意義がある。

研究成果の概要(英文)： This study focused on the multilayered domains of rural communities in Japan, including agricultural settlements, counties in medieval-early modern era, early modern villages, and modern administrative villages. The multilayered interrelationships among these domains were then analyzed from a long-term genealogical perspective since the Middle Ages. we also conducted comparative historical research on the West Indies and Korea.

The results include 1) an analysis of the autonomous administrative structure of the county unit (Tenaga) in the former Kumamoto domain, 2) influences of the Tenaga domains at the time of the merger of municipalities and agricultural cooperatives, and 3) a comparative analysis of the multilayered relationship between the counties and villages in West India and Japan.

研究分野：朝鮮近代農村史

キーワード：農村地域社会 郷 近世村 社会的分業

1. 研究開始当初の背景

集落営農や個別経営による農地集積を課題としている今日の農業構造政策において、農村における社会関係やネットワークの基盤となっている農村地域社会の領域が着目されている。その領域が、農業集落や市町村を含めて重層的に形成されていることに留意する必要がある。そこで、本研究では、人口流出にともなう農村の歴史的転換期に臨んで、今日の農村地域社会の成立期として想定される中世・近世にまで遡ったうえで、現代に至るまでの農村地域社会領域の形成と再編を、長期的な歴史的視点から分析する。その際、それぞれの領域が形成されるにいたった契機、すなわち 地域社会内部の社会関係、隣接する地域社会間の対立/協調関係、国家権力による地域社会把握のための制度に着目する。そして、これらの契機によって重層的に形成されてきた農村地域社会領域を、動態的な視点から系譜論的に(断絶の局面も含めて)分析することを課題とする。

2. 研究の目的

本研究では、農業集落と大字(近世村)との一致度に着目した「自治村落領域論争」を踏まえている。この論争における争点を敷衍しつつ、空間軸・時間軸の双方から整理することで、7つの観点を提示した(下表を参照)。



農村地域社会の重層性をめぐる観点の整理

論点	時間軸				空間軸					比較		
	中世	近世	近代	現代	集落	惣村・近世村・大字	(明治)行政村	学校区	郷	合併村	西インド	朝鮮
1. 開発と地域資源(水利・林野)	○	○	○		○	○			○			
2. 「自力の村」(村による武装・自衛)	○	○			○	○			○			
3. 非農業部門での職能ネットワーク	○	○	○	○		○			○	○		
4. 広域的な自治・中間支配機構	○	○			○	○			○			
5. 自治村落領域論争		○	○		○	○						
6. 町村制(学校区)および町村合併			○	○		○	○	○	○	○		
7. 構造政策(農業生産組織)の担い手				○	○	○	○	○	○	○		

そのうえで、次の4つの論点を提示した。これらの論点に関して、日本国内の調査対象地域間での比較、および西インド・朝鮮との国際比較を通じて、具体的な実像を析出してゆくことを目的として設定した。

1) 中世以降、近世村が成立するまでの過程において、地域資源(水利・林野)の占有をめぐる隣接するムラ同士が競合した。時には、農民が武装して戦闘を行った(「自力の村」)。その過程を経て、地域資源の利用秩序が形成された。ムラを越えた領域(郷)におけるムラ相互の関係性の下で、近世村が成立していった(論点1、2、5)。

2) 中世・近世の日本において郷はさらに重要な役割を担った。ひとつには、職人や被差別民の社会的再生産が行われる領域であった。郷は、彼(女)らに対する身支配の単位でもあった。もうひとつには、郷は、近世村を超えた広域の自治単位であり、同時に幕藩権力が地域支配を行う行政単位でもあった(論点3、4)。

3) 近代以降の地方行政再編の過程において、近世村領域を超えた行政区域((明治)行政村、学校区、合併村など)が設定されてゆく。その際、近世以来の郷という領域が、ある場合には参照され、ある場合には忘却されていった。旧行政村や学校区が農業構造政策の対象領域として機能している場合もある(論点6、7)。

4) 西インド・朝鮮の農村地域社会との比較する際の論点は、表-1()の通りである。それらのなかでも特に郡に焦点を当てる論点3・4は比較のキモとなる。西インドでは、非農業職業集団が郡単位で成立して自治機能を保持するとともに、国家権力はそれを身分集団として組織化した。朝鮮では、郡は中央権力の直接統治が及ぶ最末端行政機構であったのと同時に、地方有

力者(両班)のネットワークが成立する領域でもあった。

3. 研究の方法

本研究では、比較史によるアプローチを採った。まず、中世・近世における 藩領領国支配/幕領非領国支配の差、 郷レベルでの自治・中間支配機構、現代における 農業集落と大字の一致率、 農業集落領域(境界)の確認可否という4つの指標を設定して、それぞれに異なる特性を有する日本国内の4地域を選定した(神奈川県秦野市・石川県能美市・山口県長門市・熊本県)。また、国際比較の対象地域とした西インド(インダプール郡)は、近代以前には、中央権力の下で非領国的な地域支配が成立し、郷が支配と自治の境界に位置していた。他方、朝鮮では、郡が中央権力と在地勢力(両班)の結節点であった。4つの指標に関して西インドと朝鮮は、日本国内4地域との類似性と差異性を見いだすことができる。比較的分析をおこなうのに適切な分析対象地域であると考えられる。

データ収集手法は、文献資料調査(地図も活用する)、行政機関への聞き取り調査、地域住民への聞き取り調査(農村地域社会の領域に関する認識およびそれらの領域に対するアイデンティティ)という3本立てとした。

4. 研究成果

1) 中世～近世期の日本農村社会に関しては、熊本県(旧熊本藩)を対象とする研究が進展した。熊本藩においては、「手永」と呼ばれる、郷レベルでの中間支配機構が整備され、手永ごとに惣庄屋が置かれていた。そして、郷単位での自治的な地域運営が実施された。今村は、手永・惣庄屋制度の行財政機能を分析し、さらに、明治維新後の地方制度に及ぼした影響を明らかにした(今村直樹 2020)。稲葉は、中世～近世以降期に着目して、熊本藩領における地域社会の再編過程の一端を明らかにした(稲葉継陽 2022)。

2) 現代の日本農村社会に関しては、安藤が、農業政策論の視点から、農村振興政策が地域社会をどのように把握しているのか、について論じた。

3) 松本は、上記の1)と2)の論点を、時間軸の観点から比較検討する試みを行った。下掲の表-1に示したように、近世期に成立した手永の領域が、近代以降現代にいたる市町村合併、あるいは農協合併における領域設定の規定要因となっていることを確認した(松本武祝・伊庭治彦 2018)。

4) 中近世以降の西インドでは、数十の村から形成される広域的な地域単位があった。この地域

中世(戦国期)		近世(17c半ば～)	町村制(1889年)	1955年	平成合併	農協					
						48年	62年	77年	87年	89年	96年
堅志田領地域	豊田郷	中山手永	豊野村(7村) (2000年豊野町)	宇城市 (2005年に近隣4町と合併)	豊野村 豊野村第一	肥後豊野	下益城東	下益城東	熊本宇城農協下東支所		
	甲佐郷										
積迎院門前地域	中山郷		中山村(13村)	中央村 (75年中央町)	美里町 (2004年)	中央村中山*	肥後中央				
		年禰村(11村)		年禰							
砥用郷	東砥用	砥用手永	東砥用村(8村)	砥用町	砥用町*						
	西砥用		西砥用村(16村) (24年砥用町)								

出典：稲葉継陽「熊本藩政の成立と地域社会 - 初期手永地域社会論 -」吉村豊雄ほか『熊本藩の地域社会と行政 - 近代社会形成の起点 -』思文閣出版、2009年、熊本県総務部地方課『熊本県市町村合併史』1969年、熊本県農業協同組合中央会『四十年の歩み』1995年、熊本県『熊本県の農協』平成24事業年度、2011年、より作成。

注1) 町村制施行(1889年)時の村名のあとの数値は、合併された旧村数を示す。

注2) 1896年に郡制が敷かれ、表中5村はすべて下益城郡(3町15村)に属した。

注3) 中央村発足時に、年禰村の一部(3旧村および1旧村の一部)が砥用町に編入されている(1957年に、3旧村のうち1つが年禰村に復帰)。

注4) 豊野町と合併した4町のうち、小川町・松橋町は下益城郡内、不知火町・三角町は宇土郡内。

注5) 熊本宇城農協は、下益城郡・宇土郡(宇土市を含む)管内の7農協の合併による。

注6) *を付した農協名は、1955年中央村・砥用町成立後の名称と推察されるが、原資料のまま記した。

単位が郡であり、上記1)で述べた熊本藩の手永に比定することができる。西インドにおいては、郡が、国家権力の直接支配が及ぶ末端の領域であり、村を領域とする地域社会との境界であった。

小川は、ムガル帝国の衰退からイギリス植民地化に至る過程を、郡レベルでの地域社会における社会的分業の特徴や権力構造の変化に着目して実証的に分析した（小川道大 2019）。5)上記1)と4)がそれぞれ主題とした日本と西インドの郷/郡レベルの地域社会の特性を明らかにするために、戸石・松本は、両地域を比較研究するための論点を整理した。そこでは、「60人の農民と12種類のバルター職人」という慣用句で表されるインドの伝統的な社会構造に着目した。そして、村の領域を超えて郡レベルで成立するインド農村での社会的分業の在り様を、近世日本のそれと比較した。比較の結果、村・郷/郡という重層的な地域社会の領域と郷/郡における非農業部門のネットワークを見いだすことができる点において、西インドと日本の農村社会の構造の類似性を見出した（戸石七生・松本武祝 2021）。

参考文献リスト

- 安藤光義 2020 「農村政策は何を目指しているのか - 農村の振興とは何か - 」『農村と都市をむすぶ』第 823 号、104-110 頁
- 稲葉継陽 2022 「近世初期における諸国城割と地域社会 - 藩政成立史序説 - 」『永青文庫研究』第 5 号、1-25 頁
- 今村直樹 2020 『近世の地域行財政と明治維新』吉川弘文館
- 小川道大 2019 『帝国後のインド 近世的発展のなかの植民地化』名古屋大学出版会
- 戸石七生・松本武祝 2021 「日本とインドの村落共同体の比較研究 - 社会的分業の観点から」日本・アジア学教育研究ネットワーク編 『日本・アジア学の歩みと展望 過去・現在・未来』東洋文化研究所・ASNET、所収
- 松本武祝・伊庭治彦 2018 「『地域』と次世代型農業経営体との関係性」解題」『農業経済研究』第 90 巻第 3 号、201 ~ 206 頁

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 安藤光義	4. 巻 823
2. 論文標題 農村政策は何を目指しているのか 農村の振興とは何か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農村と都市をむすぶ	6. 最初と最後の頁 104-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲葉継陽	4. 巻 354
2. 論文標題 細川幽斎・明智光秀と「天下泰平」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 茶道研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉継陽	4. 巻 849
2. 論文標題 熊本地震後の文化財保護	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉継陽	4. 巻 4
2. 論文標題 近世初期における給人地支配の危機と統制	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 永青文庫研究	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村直樹	4. 巻 10
2. 論文標題 近世近代移行期の天竜川治水事業と「非領国」「藩領国」 渡辺・伴野・浅井報告について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡県地域史研究	6. 最初と最後の頁 52-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村直樹	4. 巻 101
2. 論文標題 地方行財政の「維新」 明治三年熊本藩雑税廃止再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 熊本史学	6. 最初と最後の頁 101-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村直樹・竹山瞬太	4. 巻 4
2. 論文標題 近世後期の在御家人制度と熊本藩政 細川家文書「在中 下」(抄出)について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 永青文庫研究	6. 最初と最後の頁 51-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川道大、高島淳、山畑倫志、小倉智史、澁谷俊樹、足立享祐	4. 巻 30
2. 論文標題 第6回シンポジウム ヒンドゥイズム再考 - 時代を超えた変動とその余白 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南アジア研究	6. 最初と最後の頁 141-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11384/jjasas.2018.141	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸石七生、松本武祝、近藤諒一郎、山田七絵、小川道大	4. 巻 27-4
2. 論文標題 ベジタリアン食の類型化におけるグローバルスタンダードの可能性 - 航空会社特別機内食の国際比較 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フードシステム研究	6. 最初と最後の頁 214-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5874/jfsr.27.4_214	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gkartziros Menelaos、Toishi Nanami、Woods Michael	4. 巻 78
2. 論文標題 The language of rural: Reflections towards an inclusive rural social science	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Rural Studies	6. 最初と最後の頁 325 ~ 332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jrurstud.2020.06.040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 安藤光義	4. 巻 91-2
2. 論文標題 農村政策の展開と現実	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 164-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉継陽	4. 巻 2
2. 論文標題 近世初期における百姓の法的地位と村共同体 島原一揆後の地域復興をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 永青文庫研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉継陽	4. 巻 なし
2. 論文標題 明智光秀論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本県立美術館図録『細川ガラシャ』	6. 最初と最後の頁 194-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉継陽	4. 巻 なし
2. 論文標題 松井興長の諫言 その論理と役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ザ・家老 松井康之と興長	6. 最初と最後の頁 114 - 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲葉継陽	4. 巻 137
2. 論文標題 戦国社会研究の現状と細川忠利	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 29 - 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村直樹	4. 巻 2
2. 論文標題 近世中後期の地域財政と地域運営財源 熊本藩を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 永青文庫研究	6. 最初と最後の頁 65-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村直樹	4. 巻 24
2. 論文標題 「肥後の維新」を再考するために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Kumamoto : 総合文化雑誌	6. 最初と最後の頁 84-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤 則夫、小川 道大	4. 巻 2018
2. 論文標題 2017年のインド 問題を内包しつつも安定した政権運営を続けるモディ政権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア動向年報	6. 最初と最後の頁 481～514
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/asiadoukou.2018.0_481	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 戸石七生	4. 巻 78
2. 論文標題 日本の伝統農村における集落財政について 神奈川県秦野市の村明細帳を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 共済総合研究	6. 最初と最後の頁 34#57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 MATSUMOTO Takenori、CHUNG Seung Jin	4. 巻 27
2. 論文標題 The Penetration of 'Sanitary Discipline' in Colonial Local Society: Hygiene and Medical Care Problem in the Honam Plain in Korea	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Korean Journal of Medical History	6. 最初と最後の頁 357～396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.13081/kjmh.2018.27.357	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松本武祝・伊庭治彦	4. 巻 90-3
2. 論文標題 「『地域』と次世代型農業経営体との関係性」解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 201-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Michihiro Ogawa and Seemanta Sharma Bhagabati
2. 発表標題 Reconsidering the Great Famine of Western India (1876-1878) from Meteorological and Hydrological Perspectives
3. 学会等名 AAS 2021 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭勝振・松本武祝
2. 発表標題 20世紀東アジアの水害 報告 : 韓国東津江・東津江の常襲水害地区二事例
3. 学会等名 東洋文化研究所主催4研究所合同シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本武祝・戸石七生
2. 発表標題 農村史からみた モンスーンアジアの歴史
3. 学会等名 東洋文化研究所・ASNET共催シンポジウム「日本・アジア学の歩みと展望」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 戸石 七生・松本 武祝・近藤 諒一郎・山田 七絵・小川 道大
2. 発表標題 ベジタリアン食の類型化におけるグローバルスタンダード - 各国の航空会社の特別機内食におけるベジタリアン対応の分析 -
3. 学会等名 日本フードシステム学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲葉継陽
2. 発表標題 初期小倉藩・熊本藩の手永制と惣庄屋
3. 学会等名 日本・インド・朝鮮比較史科研費研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲葉継陽
2. 発表標題 初期細川家中の構成と変容 知行制・上方米市場・請免制
3. 学会等名 永青文庫研究センター主催シンポジウム「熊本藩から見た日本近世」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今村直樹
2. 発表標題 近世中後期藩領国の地方行政と荒廃農村対策 熊本藩と尾張藩の比較
3. 学会等名 シンポジウム「熊本藩からみた日本近世 比較藩研究の提起」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今村直樹
2. 発表標題 明治維新と地域行財政 明治3年熊本藩雜稅廢止再考
3. 学会等名 熊本史学会秋季研究発表大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今村直樹
2. 発表標題 明治初年の旧蕪山代官江川氏と「御圍地」
3. 学会等名 近現代史研究会11月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今村直樹
2. 発表標題 19世紀熊本藩領の行財政制度と地域社会
3. 学会等名 第90回經濟史研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Michihiro Ogawa
2. 発表標題 Reconsidering the Great Famine of Western India (1876-1878) from Perspectives on Mortality and Climate
3. 学会等名 AAS in Asia, 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Michihiro Ogawa
2. 発表標題 The Activities of European Merchants under the India Monetary System in Western India with Special Reference to Bombay and Pune in the Late Eighteenth Century
3. 学会等名 XVIII World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Michihiro Ogawa
2. 発表標題 Reconsidering the village community in the 18-19th century Western India
3. 学会等名 日本南アジア学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川道大
2. 発表標題 「ヒンドゥイズム再考：時代を超えた変動とその余白」趣旨説明
3. 学会等名 日本南アジア学会全国大会・日本南アジア学会30周年記念連続シンポジウム(第6回)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Michihiro Ogawa
2. 発表標題 Reconsidering the Great Famine (1876-1878) in Western India from a meteorological perspective
3. 学会等名 Indo-Japan Joint Workshop: Socioeconomic/Hydroclimatological Perspectives of Future Asian (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Michihiro Ogawa
2. 発表標題 Governance of Natural Resources and Land Use in Western India from the 18th century to the 19th
3. 学会等名 JSPS-ICSSR Bilateral Joint Research Project, International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川道大
2. 発表標題 「マラーター王国・同盟における公文書の様式と其の変化」
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA研) 共同利用・共同研究課題「近世南アジアの文化と社会：文学・宗教テキストの通言語的比較分析」の研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸石七生・草野拓司
2. 発表標題 BJP政権成立以前のインドにおける牛の屠殺規制と穀物生産 「州による牛屠殺規制の要旨」の分析
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nanami Toishi
2. 発表標題 Becoming Familiar: Rural Japan
3. 学会等名 Contemporary Arts in Rural Development: Lessons from Japan and the UK (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 公益財団法人永青文庫、熊本大学永青文庫研究センター	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 244
3. 書名 永青文庫の古文書	

1. 著者名 稲葉継陽・小川弘和編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 319
3. 書名 中世相良氏の展開と地域社会	

1. 著者名 稲葉継陽・鶴嶋俊彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上天草市	5. 総ページ数 269
3. 書名 上天草市史 姫戸・龍ヶ岳町編3 中世 戦国天草の領主一揆と城	

1. 著者名 今村直樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 394
3. 書名 近世の地域行財政と明治維新	

1. 著者名 熊本大学永青文庫研究センター	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 472
3. 書名 細川家文書 地域行政編	

1. 著者名 日本・アジア学教育研究ネットワーク	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋文化研究所・ASNET	5. 総ページ数 136
3. 書名 日本・アジア学の歩みと展望 過去・現在・未来	

1. 著者名 熊本大学永青文庫研究センター	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 360
3. 書名 細川家文書 熊本藩役職編	

1. 著者名 静岡大学人文社会科学部・地域創造学環	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 大学的静岡ガイド	

1. 著者名 愛知県史編さん委員会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 愛知県	5. 総ページ数 740
3. 書名 愛知県史 通史編5 近世2	

1. 著者名 稲葉 継陽	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 256
3. 書名 細川忠利	

1. 著者名 小川 道大	4. 発行年 2019年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 448
3. 書名 帝国後のインド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	戸石 七生 (TOISHI Nanami) (20622765)	東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	稲葉 継陽 (INABA Tsuguharu) (30332860)	熊本大学・永青文庫研究センター・教授 (17401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 道大 (OGAWA Michihiro) (30712567)	東京大学・東洋文化研究所・准教授 (12601)	
研究分担者	安藤 光義 (ANDO Mitsuyoshi) (40261747)	東京大学・大学院農学生命科学研究科（農学部）・教授 (12601)	
研究分担者	今村 直樹 (IMAMURA Naoki) (50570727)	熊本大学・永青文庫研究センター・准教授 (17401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関